

審査結果報告書

平成 29 年 2 月 3 日

主 査 氏 名

佐藤 之俊



副 査 氏 名

矢野 瀬 信雄



副 査 氏 名

佐藤 雄一



副 査 氏 名

市川 尊文



1. 申請者氏名 : DM14004 石原未希子

2. 論文テーマ :

Evaluation of concurrent chemoradiotherapy for locally advanced NSCLC according to the EGFR mutation status

(局所進行非小細胞肺癌に対する同時化学放射線療法の効果における EGFR 遺伝子変異の影響)

3. 論文審査結果 :

全世界において、原発性肺癌は未だ悪性腫瘍関連死の主要原因の一つであり、予後不良な疾患である。肺癌うち 80%は非小細胞肺癌(NSCLC)で、その約 30%が診断時に局所進行期である。このような肺癌に対する治療としてプラチナ併用同時化学放射線療法(cCRT)が行われているが、その効果は満足できるものではない。しかし近年、上皮成長因子受容体(EGFR)チロシンキナーゼ阻害薬が開発され、進行期 NSCLC の治療戦略が刷新された。

本研究では、進行期 NSCLC に対する cCRT の効果と EGFR 遺伝子変異の影響を検討した。64 例の切除不能 NSCLC を対象とした治療効果、予後、再発様式、EGFR 遺伝子検索の検討から、EGFR 遺伝子変異陽性群では PFS が短く再発率が高いこと、原発巣周囲の局所再発率が低いこと、遠隔再発が多いことが示された。すなわち、局所コントロール良好にも関わらず EGFR 陽性群では無増悪生存期間が勝っていないという結果であった。このことから、プラチナ併用 cCRT が EGFR 遺伝子変異陽性の NSCLC の最適かつ最強の治療法ではない可能性を指摘するという有意義な研究であった。

本研究に関する質疑応答では、cCRT の効果と EGFR 遺伝子変異の評価、臨床応用と今後の展望に関する多くの質問がなされ、申請者はこれらの質問に適切に回答した。以上より、本研究は博士課程の学位論文に相応しいものであると考えられ、博士号を授与するに十分値すると判定された。